

第七章 金融

四三六

概況 大震災に據つて、横濱金融状態は極度の混亂に陥つた。當時市内にあつた銀行本支店数は四十二であつて、その内貯蓄銀行の数は十一であつた。川崎銀行を除く四十一銀行は全部震災の厄に遭ひ、重要書類を焼失した處も尠なくなつた。而して預金者の多くは、預金帳や其他の書類を焼いたので、預金を引出すことが出来なかつた。

九月六日になつて、政府は勅令第四〇六號を以て、私法上の金銭債務の支拂延期及手形等の權利保存行爲の期間延長に關する件を公布し、即日之を施行した結果、金融状態は聊か安定になり、九月二十五日は横濱有數の銀行は營業を開始したが、支拂猶豫令、手形交換の停止、物資取引の中絶等に因り、唯單に預金事務を取扱つた。此の間日本銀行の援助に依つて、經濟界も漸次安定し、債務の支拂も漸く始められた。日本銀行は手形再割引制度を設けると共に、九月二十九日の手形割引補償令と相俟つて、金融の硬塞も大いに緩和されたので、九月三十日限り支拂猶豫令を打切つた。斯くて金融界は漸時

恢復し、時日の經つと共に、安定の域に達した。

手形交換 金融状態の指針とも稱すべき、手形交換高は、震災前六月には、交換手形枚數九三、六〇八枚、交換金額貳億五千八百九拾八萬七千五百拾參圓であつたが、十月二十五日震災後初めて交換を開かれ、月末に至る五日の手形枚數一、七一七枚、金額八百貳拾五萬八千貳百拾五圓、十一月末には手形枚數一、八八四、金額五千九拾四萬四千四百七拾參圓、十二月末手形枚數二五、二八九、金額壹億八百四拾萬參千百〇壹圓、越えて大正十三年五月末には手形枚數六〇、五三〇、金額壹億四千貳拾萬參千七百八圓を示し、金額に於て震前の約五割五分の交換高に達するに至つた。

預金 震災前には三十一の銀行預り金合計貳億六千七百六拾四萬七百六拾參圓であつたが、震災直後の九月末日に開業したのは、正金銀行其他合計二十二銀行で、九銀行は開業しなかつた。九銀行が開業しないことは金融界の大勢には大なる影響はないので、此等二十二行に就て調査して見ると、預金總計は震災直後には貳億五千貳百貳拾萬貳百貳拾九圓で、震災前六月の貳億六千七百六拾四萬七百六拾參圓に比較すると、其の九割四分に當つてゐる。是れは主として震災直後の九月の商取引の中絶に基因するものである。十月に入つて二十五日から手形交換が再開されて、十月末日に

は二十四銀行の預金總計貳億四千五百萬圓臺に上り、大正十三年一月には貳億參千八百萬圓臺、二月同く貳億參千八百萬圓臺、四月貳億四千五百萬圓臺、五月貳億五千參百萬圓臺となつて、漸次震前の數に近づいた。

貸出 震前六月には貸出金額貳億參千貳百七拾四萬七千圓であつたが、震災

直後の九月末日には貳億參千五百六拾四萬七千圓となり、更に日本銀行の手形割引補償令等に依つて、十月末には貳億五千百萬圓臺となり、壹千六百萬圓の貸出増加を示した。十一月には貳億七千參百萬圓臺、十二月には貳億五千九百萬圓臺、一月には貳億五千萬圓臺を維持し、二月に入つて、貳億四千八百萬圓臺、三月には貳億六千九百萬圓五月には貳億五千參百萬圓となつて、是亦漸次震災前の貸出金額と同額になつた。

貯蓄銀行 貯蓄銀行に就いて看るに震災直後の九月末には、普通預金貳百貳拾四萬九千貳百三圓、定期預金五拾六萬六千六百六拾參圓で、震災前六月の普通預金は五百六拾壹萬七千八百五拾參圓に比し、約其半額に減少し、定期預金は震前六月の四百九拾貳萬壹千七百貳圓に對し、約十分の一強に低額した。是等預金は零細の貯蓄であつたから、震災の被害を補償する爲に拂出さしたのであらう。殊に其の預命者の數は震前六月には、普通預金者六萬八千六百七十九名、定期預金者一萬四千七百六名であつた。

十二月には普通預金者五萬一千百十八名、定期預金者六千九百十五名であつた。斯くて五月に入つて、普通預金者は六萬五百五十九名、定期預金者は一萬一千八百九十二名を算するに至つた。

参 考

情報に依つて知られたる金融狀況

市内銀行業者は、殆んど罹災し、悉く營業を停止したが、金融機關回復の必要上、市内銀行業者に對し、急速開業方勸誘したので、九月二十五日以後、左記銀行は開業した。預金支拂狀況等は比較的靜穩であつた。戸部銀行及辛酉銀行横濱支店、其他若干の未開業銀行があつた。又外國人經營に係る銀行も、開業しなかつたが、インターナショナル銀行露亞銀行は十月二十五日から開業し、上海銀行チャータード銀行も開業することになつたので、漸次金融の緩和を見るに至るであらう。二十五日開業のもの(本支店)左の通りである。

正 金 銀 行 第 一 銀 行 第 三 銀 行 第 百 銀 行

金 融 (参 考)

十五銀行 三井銀行 住友銀行 安田銀行
 川崎銀行 臺灣銀行 藤本ビルブローカー 晝夜銀行
 東京貯蓄銀行

又二十八日開業したるもの(本支店)は左の通りである。

第二銀行 左右田銀行 平沼銀行 渡邊銀行
 興信銀行 横濱貿易銀行 若尾銀行 元町銀行
 戸部銀行 都南銀行 横濱商業銀行

横濱商業會議所調査に依りて、九月中の横濱正金銀行、外二十一銀行の金融狀況を見ると、預入金高は定期預金、當座預金、特別當座預金、通知預金、其他預金を合して千八百八拾五萬貳千六百七拾參圓に達し、拂戻金高は各種を併せて千六拾九萬千四百壹圓に及び、預入と拂戻と對照すれば、各銀行共に拂戻の方が超過の趨勢を示し、正金外二三銀行が預金の超過を示して居る。殊に正金銀行では貳百萬圓以上の超過を見た。故に差引預金は百拾六萬貳百七拾貳圓の超過を見た。尙二十二銀行の九月末日現在諸預金は貳億五千參百貳拾萬貳百貳拾九圓諸貸金は貳億參千五百六拾四萬七千七百七拾圓であつた。

	(預入高)	(拂戻高)
横濱正金	九,三三九,三二七	七,二一六,〇八五
第 二 銀 行	一,七五〇	三九,三三六
横濱右興	一六,八六二	三〇,七五一
左 右 興	一二四,六三八	五一七,〇一三
神奈川農工	四五九,五八一	六六〇,二四八
横濱若尾	五七,一六七	二一,九〇二
横濱南	二,九〇〇	一,八四〇
平 沼 銀 行	二九八,二〇三	二四,五九一
渡 邊 銀 行	九,八一八	三一九,四七〇
元 町 銀 行	一三六,三二五	一五,六三八
三 井 銀 行	八,八七七	一七五,三七七
第 三 銀 行	二二二,八九九	七三,六八八
第 一 銀 行	一九三,二六一	四三一,四九〇
第 二 銀 行	三八四,七六六	四二,一六三
住 友 銀 行	八一五	四〇二,一九三
戸 部 銀 行	三一七,五八一	三,五一六
川 崎 銀 行	八,八七六	三三三,一八五
臺 灣 銀 行	五三	一〇,五〇八
藤 本 銀 行	七四,八一二	一〇〇,七一四
日 本 銀 行		一一二,三二六

金融(参考)

安十
(令) 計) 田五
一一二、四三八
七二、三一四
一一、八五三、二六三

四四二
一四二、五三五
一六、八三二
一〇、六九一、四〇一

(横濱商業會議所調査)

第八章 港灣及水路

第一節 横濱港

一 繫船岸壁

新港岸壁は大藏省に於て、明治三十三年十一月、工事に着手し、同四十四年三月完成したもので、其構造は頂點笠石より、干潮面以上約二尺までは、場所詰混凝土壁で、其以下水中の部分は、基礎斜面上に重量十噸半及十二噸七分の方塊を、一段又は二段に、一列に沈め、背部岩盤との間に水中混凝土を施し、又は幅六尺の場所詰混凝土を岩盤前面に造つて高さ四尺若くは八尺の岩壁實體を形成したのである。岸壁前面は二十分の一の勾配を保たしめ、岸壁裏には割栗石を填めて、埋立地隅角を除く外延長六間毎に區劃を設け、隣區と全く絶縁せしめたり。而して岸壁基礎の大部分は土丹岩盤を利用せりと雖も、一部^延九十四^長間は海底泥土深きを以て、捨石堤上に袋詰混凝土を重ね、岸壁基礎を設けたのである。

港灣及水路(横濱港)